

令和2年第3回東大和市議会建設環境委員会記録

令和2年9月14日（月曜日）

出席委員（7名）

委員長	床 鍋 義 博 君	副委員長	尾 崎 利 一 君
委員	二 宮 由 子 君	委員	木 下 富 雄 君
委員	関 田 正 民 君	委員	佐 竹 康 彦 君
委員	中 間 建 二 君		

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴 木 尚 君	事務局次長	並 木 俊 則 君
議事係長	吉 岡 繁 樹 君	主任	関 口 百 合 子 君
主任	高 石 健 太 君		

出席説明員（3名）

副市長	小 島 昇 公 君	都市建設部長	鈴 木 菜 穂 美 君
土木課長	寺 島 由 紀 夫 君		

会議に付した案件

- (1) 第59号議案 市道路線の認定について
- (2) 第60号議案 市道路線の変更について
- (3) 第62号議案 市道路線の一部廃止について
- (4) 第61号議案 市道路線の変更について
- (5) 所管事務調査
観光行政に関することについて

午前 9時30分 開議

○委員長（床鍋義博君） ただいまから令和2年第3回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、広い空間を取る必要がございますことから、本日もこの全員協議会室において審査等いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（床鍋義博君） 初めに、第59号議案 市道路線の認定について、第60号議案 市道路線の変更について、第62号議案 市道路線の一部廃止について、第61号議案 市道路線の変更について、以上4議案を一括議題に供します。

お諮りいたします。

以上4議案の審査に先立ち、これより現地視察を行いたいと思っておりますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

それでは、これより現地視察を行います。

〔 現地視察 〕

午前 9時31分 休憩

午前10時34分 開議

○委員長（床鍋義博君） 現地視察により路線の状況を確認いたしましたので、これより審査を行います。

4議案につきましては、既に本会議において提案理由の説明が終了しておりますので、直ちに質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 質疑を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、質疑を終了いたします。

これより、自由討議を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 自由討議を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、自由討議を終了いたします。

討論を行います。

〔発言する者なし〕

○委員長（床鍋義博君） 討論を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、討論を終了いたします。

採決いたします。

第59号議案 市道路線の認定について、本案を原案どおり可決と決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、よって本案を原案どおり可決と決します。

採決いたします。

第60号議案 市道路線の変更について、本案を原案どおり可決と決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、よって本案を原案どおり可決と決します。

採決いたします。

第62号議案 市道路線の一部廃止について、本案を原案どおり可決と決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、よって本案を原案どおり可決と決します。

採決いたします。

第61号議案 市道路線の変更について、本案を原案どおり可決と決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、よって本案を原案どおり可決と決します。

ここで、説明員退席のため暫時休憩いたします。

午前10時36分 休憩

午前10時37分 開議

○委員長（床鍋義博君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○委員長（床鍋義博君） 次に、所管事務調査、観光行政に関することについて、本件を議題に供します。

本件につきましては、前回の委員会において、前うまかんべえ～祭実行委員会会長でもある木下富雄委員から、当市の観光推進事業として実施している、うまかんべえ～祭等について何うこととなっております。

このことに伴いまして、本日は机上に資料を配付しております。

それでは、当市の観光推進事業である、うまかんべえ～祭等並びに配付資料について説明を求めます。

○委員（木下富雄君） 外の調査の後のお時間をいただきまして、ありがとうございます。

まず、A3の紙で用意させていただきました資料でございますが、こちらは7月29日のときに皆様にお配りした中の数字の資料があるんですが、それが表によって一覧になっておりましたので、タイトルをつけて個別に横で第8回まで追えるような形に作り直したものでございます。

その中で、前回の資料に1個訂正がございまして、前回の時の一覧の表で作ったときの第2回の会場内売上額のところが651万8,400円というふうに資料の提示になってたんですが、今回、この資料を作るに当たってちょっとチェックしたところ間違っているということで、実際の金額はA3判の資料に載ってます第2回のところの会場全体売上のところ、742万9,500円ということで、ちょっとそこだけ訂正を一番最初をお願いいたします。

私、今回しゃべる機会をいただきましたのは、たまたま第1回から第7回まで、うまかんべえ～祭の実行委員長をやらせていただいております。第1回のうまかんべえ～祭、既存でない新しいお祭りを立ち上げるに当たって、各種団体の長などいろいろなところにお声がかかりまして、2012年当時、たまたま私はJ A 東京みどり東大和支店の中のJ Aの青壮年部の部長をやっていました関係上から、この実行委員会のほうに顔を出

させていただいて、青壮年部長は1年なので、この1回できようならという予定だったんですが、いろいろなことが絡みまして、7回まで委員長を務めさせていただきました。

そもそも、このうまかんべえ〜祭というのは、新しいお祭りを創出することによって、東大和に活力を生み出そう。また、東大和を市外の人たちにもっと東大和市について知っていただくということをPRするために始めようということで、各いろいろな団体の長に集まっていた中で実行委員会を開きまして、うまかんべえ〜祭ということで始めさせていただきました。

このうまかんべえ〜祭という名前は、そのときの実行委員の中にいらっしやいまして、本日もこの建環の中でいらっしやいます関田正民委員の御発案によって、うまかんべえ〜祭ということに名前をつけさせていただきました。このうまかんべえという響きは、東大和の本来のお客様にお茶等をおもてなししたときに、「おいしいでしょ」と尋ねる、「うまかんべえ」というふうに聞いてたというところから来て、もてなしの心であるということで、この名前をつけてずっとお祭りをさせていただいております。

第1回目が本当に全て初めてやったことですから、見ていただければ参加数が20,000人ということで、地元の食材を使ったグルメをメインにやっております。そんな関係で出店していただいた20店の皆様にオリジナルの料理を作っていて、振る舞うというコンセプトで始めてまいりました。この中で二宮委員も出店のほうでいろいろお手伝いして、毎年御尽力を賜ってる中であります。

それから、1回から7回を追っていく中で、グルメコンテストの出店の数というのは、20前後ということですが、やっぱりこれは会場のキャパのことがありまして、これ以上増やせないということがありました。そして、この20店舗のお客様、出店者の皆様に2日間で御来場いただく皆様に食の提供をずっと7回、8回としてきたわけですが、朝10時から始まって、早いところではお昼前に完売してしまうような、食のイベントでありながらお昼までもたないお店が出てきたということが、実行委員としては大分苦慮するところでありました。これは、ただひとえに出店者の皆様にもっと作ってくださいと軽く言えることではなくて、どの出店者の皆様も創意工夫、考えた未発表のオリジナルのものを作っていただくという前提で進めていただいております関係上、そのことが非常に難しい課題になってまいりました。

そんな中で、かねて指摘していただいたとおり、第7回に関しては、出店者以外に協賛ブースのほうで飲食店の皆様に出てきていただいて、食の提供する時間帯の幅が広げられればということもありましたが、市外業者さんの絡みとかいろいろありまして、お祭りの趣旨がちよっと違って来たんじゃないかなという御指摘もいただきまして、反省させていただきました、次年度に取り組んでいこうということになっておりました。

私が実行委員長として一番心がけていたのは、会場で皆さん手伝っていただくボランティアの皆様でございます。当初、私が会長したときも、ボランティアの皆様いろいろな方がやっていたんですが、市内の都立高校——都立東大和高校、都立東大和南高校にお伺いして、運動部の皆様等にお声をかけさせていただいて、手伝ってほしいという旨を正直なところを伝えましたところ、毎年、都立東大和南の野球部の皆様が指導の先生を携えてという言い方は変ですが、指導の先生とともに毎年来ていただけるようになりました。

そして、この子たちは会場内でもごみの担当をやっていただくという、非常に大変な部分を毎年担っているわけですが、若さと活気から暑い中でも笑顔を絶やさず頑張ってくださいまして、ボランティアの皆様の総称した活躍が一番目立つところで、ボランティアの皆様が会場をよくやっていたらいいねというような意見も、アンケート等でたくさんいただいております、このお祭り自体、本当にボランティアの皆さんで成り立っているお祭りだなということを毎年毎年実感していたところでもあります。

売上げの推移は季節にもよりますので、一概に金額というわけではないんですけども、やはり出店者の皆様が毎年毎年出ていただいても、その都度、その都度、新しい出し物を考えていただいたものでございますので、来るお客様がリピーターでも飽きることなく満足していただけてるのではないかなというところが正直な実感でございます。

それから、第1回目から第8回目までで極端に変わったところというのが、年々保健所のレギュレーションが非常に厳しくなっておりまして、食品を取扱うイベントですから本当に厳しいところがございます。ですから、年々会場設営費等が上がっていくものに関しましては、料理を作っていただく団体の皆様の場所にかかる費用がすごいかかります。アルコールをつけたりとか、ほこりが舞わないように個別で囲ってみたり、下にブルーシートを引いたり、やっぱり食を扱っているイベントですので、中心で一番心がけるところはやっぱりそこになってきている中で、保健所のレギュレーションもだんだん厳しくなっているという状況でした。

そんな中で、やっぱりお祭りをどんどん大きくしていこうということで、お客様を呼ぶためにはということで西武鉄道さんに御協力を願ったりして、西武鉄道さんは沿線でウォーキングをやっておりまして、東大和のウォーキングでゴール地点をうまかんべえ〜祭の会場に持ってくるというやり方を当初からやらせていただいてまして、ウォーキングだけでも西武鉄道さんのウォーキングは結構人気がありまして、2,000人以上の参加者を募っているのです、単純に考えても会場にウォーキング関係で2,000人の人が誘致できているということが、正直数字で見えるところであります。

それから、実行委員の数が私は年々増えていけば、いろいろな団体から出てきていただければいいなと思ってるんですが、大体20人前後で推移しちゃっているところが、ちょっと私の反省点でございまして、実行委員の皆様があらゆる団体から出てきていただければ、その都度その都度、新しい発案が出てお祭り自体も変わったものに変えていけるのではないかなと思っております、私も委員長はやめました、実行委員として残っておりますので、実行委員の皆様の人選にはいろいろ考えてくださいというふうに今の実行委員会には常々申しております。

表を見比べながら、私の思ったことを単純に今しゃべってしまいましたが、大体そんなところで、お客様も毎年楽しみにしていただけるというお祭りで、市内のお祭りの中にやっと定着してきてよかったなというところが本当の感想であります。あとは、具体的に皆様のほうから質問がありましたら、私の答えられる範囲でお答えさせていただきますので、質問形式でよろしく願いいたします。

○委員長（床鍋義博君） ありがとうございます。

説明が終わりました。それではただいまの説明に対して質疑、御意見等ございましたら御発言願います。

○委員（佐竹康彦君） 御説明いただきましてありがとうございます。

初回からの本当に御苦労の様々な様子を聞かせていただいて、本当に木下実行委員長をはじめ、実行委員の皆様、ボランティアの皆様のおかげで、これだけ市の新しいイベントとして定着していただけたということに、本当に心から感謝申し上げます。

その中で当初、東大和を代表するグルメを創出しようということで始めた中で、少しずつ在り方が変化していったというふうには私は受け止めてるんですけども、参加されてる方の中ではどのような、その点に関して東大和の新たなグルメを作るということに関しての受け止めは、1回から8回の間でどのように変化されていったのか。感じてるところで結構ですんで、教えていただければと思います。

○委員（木下富雄君） 率直な感想としましては、1回目からやればやるたびに入賞者が違った団体になって、

全く変わったものになっていくんじゃないかなと思いつつ始めたところがあるんですが、入賞者が意外に回を追ってもかぶって、そのかぶるものがそれほどバージョンアップしていない料理だったりっていう、本来ちょっと思いつかないようなところがあったりしたことと、一番最初のコンセプトとしては、東大和でB級グルメという言い方はしないんですけど、なんか新しいグルメを発信できればということで、そのグルメを定着させてグランプリみたいな形で選んで、市内の飲食店で提供できればなという方向で元々進めていく予定だったんですけども、なかなかその辺がうまくいかないのと、臨時出店で出せるものが常時の出店の店のメニューに対応できるものまで行くということも、なかなか難しかったというところが実際進めてみて分かったところがあります。

○委員（中間建二君） 木下委員のほうから、第7回目までの実行委員長を務められたということで、詳しく御説明いただきまして大変にありがとうございました。

前回のときの質疑でも伺いましたが、市のほうの認識も伺いましたが、7回、8回まで重ねた中で、東大和市が関わり、また市民の皆様にも実行委員を務めていただきながら進めるイベントとしては、これ以上ないぐらいの十分な成功を収めているわけでございますけれども、会場の問題ですとか、また参加者、来場者等も一定程度、規模が拡大してきた中で、現状ある意味では、これ以上のことを望むのも非常に難しいというか、この現状の参加者なり、売上げなりが継続して達成されていくということが現実的な目標なのかなというふうな受け止めてるんですけども、改めて実行委員長を務められた木下委員のほうで、今後のうまかんべえ〜祭の発展の方向性なり、課題なりについて、御認識があればぜひ伺いたいと思います。

○委員（木下富雄君） 私の認識といたしましては、20数名でやっている実行委員で一応補ってはいらっしゃるんですけども、東大和市の産業振興課等にも大変お世話になって進めているところでありまして、先ほどから申しましたが、実行委員の数をもう少し増やせていけたら、実務のほう、裏方のほうも実行委員会のほうで賄っていただけるようなことを進めていける。さらに、独立した実行委員として成り立ってるお祭りという確立を、一歩でも前に出せるようなお祭りにしていきたいということが本心の気持ちであります。

それから、先ほども規模的なことも言われまして、第8回まで来て来場者数の8万6,500と8万人を超える中で、都立東大和南公園のグラウンドを使っても、もうそろそろ人数的にもいっぱいということと、これまたボランティアの数と実行委員の数の少なさからくるんですけども、8万人以上のお客様を迎えると、セキュリティとか防犯の面の問題が非常に出てくるようになりまして、6回、7回、8回あたりから会場で置き引きが起こったとか、そういうちょっと今までは考えられないような視点の問題点も出てきましたので、その辺も人数に応じた、そこをフォローするボランティアの数を補っていかなくてはいけないということで、ちょっと骨子の見直しも非常に必要になってきてるのではないかなという経過点になってきております。

以上です。

○委員（二宮由子君） 御説明ありがとうございます。

私、第1回からずっと団体で出店をしております、出店者の立場から一言申し上げますと、先ほどの御説明の中でも10時開店で12時までには全部売り切れてしまう店舗、グルメコンテストで売り切れてしまうということも言われましたけれども、実はこれ、イベント全般に申し上げれば、お天気に左右されて来場者数というのがなかなか決まらないというか、雨が降ればもちろんいらっしゃらないですし、晴れであれば皆さん、こぞっていらっしゃってくださるということもありますので、出店団体としては数多く作りたいのはやまやまなんですけど、例えば2日間雨が降ってしまったら全て残ってしまっただけで、出店団体がかぶんなければいけない

ですね。これが例えば本業のプロであれば、その後の対応はお店で等いろいろありますけれども、何しろ素人の集団の出店者ですので、全て自分たちでかぶらなければいけないということで、数的にももうこれ以上増やせないってところまでは作っているとは思いますが、そこがちょっと難しい点かなとは思いますが。

その点、違う協賛の協力、協賛協力出店のところに担っていただければというふうな思いはあります。これは意見ですので。

○委員長（床鍋義博君） そのほか、ございますか。

○委員（佐竹康彦君） 木下委員の横のつながりでJAですとか、またその他、横のつながりの中で、他市の方から見て、このうまかんべえ〜祭の評価というのはどのようなことを伺ってるのか、お聞きになってる範囲で結構ですので、教えていただければと思います。

○委員（木下富雄君） 私の横のつながりというわけではないんですが、実行委員のやる気力がいろいろなところに波及しまして、スポーツ新聞の号外を近隣5市並びに所沢市に入れていただけるとか、ケーブルテレビのJ:COMさんが中継していただけるとか、他市ではなかなかないようなメディアのほうでも大分お金をかけずという言い方ではないんですが、お金が少しはかかっているんですけども、金銭以上のメディアでの効果が十分出ているんじゃないかなと思っております。

多摩モノレールの延線、そして西武線の中刷り等、それぞれの企業でありながら採算を度外視したような提供をさせていただいてるということで、お互いに腹を割って実行委員会の中へも来ていただいて、いろいろな意見を出し合っている中で、最善の策が本来であれば非常に有料でかかるようなコマーシャルの部分であるとか、そういうところも実行委員会の中に取り込むような形を極力させていただいておりまして、最大限の効果が発揮できているものと考えております。

○委員（佐竹康彦君） 今伺いまして、先ほど木下委員のほうからも実行委員の方を増やして、様々なアイデアをより多く集めたいというようなお話がございましたけども、今のお話を伺って改めてそういった意味でも、より多くの方に関わっていただくのが本当に重要なんだということで、改めて認識をさせていただきました。これは意見でございます。結構でございます。

以上です。

○委員（尾崎利一君） ありがとうございます。

この項目の中で、総経費とそれから宣伝経費が別枠で入っているんですけども、これはかなり広告宣伝を重視して、様々取り組んできたということで別枠で示されているのかなと受け止めてるんですが、ここら辺の主な内容とか、今言われたこういうふう宣伝が拡充してきた、拡大してきたというようなことが、この数字の流れの中で分かるようでしたら、ちょっと教えていただければと思います。

○委員（木下富雄君） 総経費のほうは、主にテント等の設営、会場設備費の部分に多分なっているんだと思います。敢えて宣伝経費ということになりますけども、これは西武鉄道の中の中刷りのポスター、そしてモノレールの各駅に置くB2、B1のポスター、それから市内の公共施設に貼るポスター等の印刷物と、それから会場で配るパンフレット、チラシ、事前のポスティングのチラシ等、結構印刷、宣伝媒体にかかっている部分もやっぱりメインでありまして、そちらのほう経費が別途で計上しているのは多分なんですけども、市の予算をいただく前から始めてることが先に広告を打っていったりしている部分がある関係上、ちょっと別途で先に出てるところもあると考えております。

○委員長（床鍋義博君） ただいま委員の皆様からいただきました御意見等につきましては、所管事務調査の報

告書に反映させていただきたいと思います。

続いて、今後の調査の進め方等について御協議いただきたいと思いますので、御意見等ございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（佐竹康彦君） 以前にも申し上げましたが、今年はコロナの影響で先進事例を、宿泊を伴って行くというは無理だということございまして、また近隣市につきましても、先方が受け入れていただけるようであれば、日帰りでできるということですので、それもぜひともやればなとは思いますが、それも相手のあることございまして、もし差し支えなければ、東大和市が他市と協力しながら抱えてる狭山丘陵を活用した観光振興につきましても資料等をぜひ頂けましたら、本来でしたら視察に行き、各近隣市を視察できるのが一番だと思うんですけども、それがもしできないようであれば、そういった資料も次善の策として頂いて、この場で勉強なり、意見を交換し合ったりということができればいいなというふうに思っております。

以上です。

○委員（尾崎利一君） 今佐竹委員のほうからお話あった件ですけども、せっかく資料を頂くのであれば、市のほうも事務局をやっているとしますので、資料の説明も事務局をやっている立場から説明を受けるということも併せてやったほうがいいんじゃないかというふうに思います。

○委員長（床鍋義博君） お諮りいたします。

所管事務調査、観光行政に関することにつきましては、本日はこの程度にとどめたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（床鍋義博君） これをもって、令和2年第3回東大和市議会建設環境委員会を散会いたします。

午前11時 1分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 床 鍋 義 博